



東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2023年8月10日発行

第1号 (通巻第277号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

全組合員で創り出した1年の成果を確認！ 東日本ユニオンをさらに強化・拡大しよう！



JR東日本労働組合新潟地方本部
第12回定期大会

JR東日本労働組合新潟地方本部は8月5日、新潟市の万代市民会館において、第12回定期大会を開催しました。大会構成員、傍聴者あわせて120名を超える組合員の結集のもと、この1年間の取り組みを振り返ると共に、向こう1年間の運動方針を確立しました。

組合員一人ひとりの取り組みで 組織の拡大を実現しよう！

主催者あいさつ

今回の定期大会は久しぶりの結集を求めた。多くの組合員で方針を解除して、より多くの仲間を確認することがより厳正

な組織運営であると考え、集まることでより強い組織を作っていく。本部のガイドラインは解除されたが、新型コロナウイルスが無くなくなったわけではない。引き続き感染対策をお願いする。

◆ 地方委員会以降、2023春闘をはじめ、生きるため、生活するため、労働条件の維持・向上のために駆け抜けてきた。

◆ 2023年度夏季手当の取り組みでは「年間最低6・0ヶ月以上」の期末手当水準に戻すことを柱に、職場から要求実現に向けて運動を創り出した。

◆ 一人では力を持たない私たちが、労働組合として取り組みを創り出したことにより、働くJR労働者の意識や職場の空気が変わってきた。

◆ 職場の社員の多くが声にしてこなかった、あるいは心の中に眠っていた労働環境や生活への不安や不満の声が、東日本ユニオンに結集した。

◆ この一年間、全組合員で取り組んできたからこそ、多くの仲間新たに東日本ユニオンを選択して、加入していただいた。

加入した仲間が既に「新たな仲間」に加入してもらいたい。「職場を良くしたい」など前向きにトライしていることが組織に大きな活力を与えている。

◆ 一方で、加入しようとする社員に対する妨害、組合員に対する不当労働行為を許さない。

◆ 「労働組合に加入すると差別区別されるのは仕方ない」「我が社はもともとそういう会社だ」という意識を私たち自身が持っているのであれば、そこを乗り越えていかなければ、また辛い思いをする仲間を生み出してしまいます。

◆ 何より、まともな企業にお願いする。

楽しさ・苦しさ分かち合える仲間と共に 東日本ユニオンの運動を創りだそう！

来賓あいさつ

◆ 大会には来賓として中央本部より、生田書記長、阿部組織情宣担当部長、本山組織情宣担当部長に出席いただき、生田書記長より挨拶をいただきました。

◆ 本部大会は久しぶりに100名規模で開催した。

◆ 同じ方向を向いている役員や組合員の姿を見ることができ、組織拡大に対する課題は私たちの意識を変えることであると新潟の実践から教訓を得た。

◆ 期末手当について、年間最低6・0ヶ月以上を取り戻すことを全社的な課題へ高めるために、挑戦を続けていく。

13名の代議員が 一年のたたかいを発言

大会議長には新潟支部の中村代議員を選出、スムーズな議事進行により成功のうちに終了しました。質疑では13名の代議員から発言を受けました。

◆ 2023春闘や夏季手当の取組み、会社組織再編や、安全にかかわる事象に対する取り組み、エルダー社員の課題等、多彩な視点から発言がなされました。

◆ 運動方針案や予算案などすべて満場一致で可決・承認され、新たな一年のスタートを切りました。



◆ める取り組みや根拠付けがあつて、新幹線の「その他時間」について議事録締結に至った。今後の運用がルールに基づいて行われているか、各地方において点検・検証していく。

◆ 東日本ユニオンには苦しさも楽しさも共に分かちあえる仲間がいる。組織拡大を実現するため共に頑張っていく。